

暮 南 歌（昭和六年東大寄贈歌）

海野

稔（五回文乙）作詞

思ひ出そは麗はし
我かのベリカンのソソと心臓の血もて
ソの思ひ出をほぐくあん

一、春は弥生の花影に

二、琥珀の酒に月浮かべ

三、学堂の影にたたずみて

潮の音高き美國

桂浜辺に焚火して

銀杏の梢仰ぐとき

古城の陵やあの街に

輪舞に更けしかの宵の

青く光れる大空に

頭に白き一糸を

熱き血潮も今冷えて

双手を延べて幾度か

誇りし頃のけがれなき

暮れ行かんとする青春の

希望の歌をうたひてし

真白き心帰り来ず

心に迫る暗き影

南の方ぞ慕はるる

あの日 あの宵

あの日 あの宵

あの日 あの宵

あの南に過ぎし

あの南に過ぎし

あの南に過ぎし

あの空 あの洋

あの空 あの洋

あの空 あの洋

あの南に青き

あの南に青き

あの南に青き

慕南歌

高井洋平(4回文甲1)作曲

Moderato

はるはるやまのはながけに
しののかたかきうましくに
こじらのあいかやあのもちに
うへにうきじに
ほりほりしきの行かれなき
ましきこころかえりにす
あのひあのよいあのわがみにすきし
あのそらあのうみあのわがみにああ